

寺院における婚活支援活動

—— 未信徒教化の視点から ——

渡部 公友

【はじめに】

少子高齢化社会、特に「少子化」をめぐる現状は、人々の結婚に対する価値観の変化や、昨今の経済状態・労働環境などの影響もあり、晩婚化・未婚化と密接にリンクしています。

内閣府の『平成三十年版 少子化社会対策白書』によれば、平成二十八年では婚姻件数・婚姻率が過去最低を記録しました。また、それと同時に、子どもの出生数も九十七万六千九百七十八人となり、明治三十二年の統計開始以来、初めて百万人を割っています。そして、令和元年は九十万人を割り込んでしまうとの報道もあります。このように、少子化の進行は、統計の上からも明白です。

また、最近では「墓じまい」が増え、寺院を支える檀信徒も、今後更に減少していくことが予想されています。少子高齢化社会の影響は、寺院にとっても「檀家」という存在そのものを希薄化させ、ひいては近未来に「寺院消滅」が当たり前となるような社会問題になっています。

【活動のきっかけ】

これまで、自坊である本覚寺の檀信徒の若い世代にも、未婚の男性・女性は珍しくなく、我が子、我が孫の将来を心配された方が月回向の際に相談されるケースも少なくありませんでした。

こうした背景を踏まえ、話は平成二十八年二月に遡りますが、当時在籍していた第四期『未来の住職塾』（浄土真宗本願寺派僧侶の松本紹圭師主宰）において、寺業計画書を作成するタイミングにありました。これを好機として、自坊の未来を見据え、また、檀信徒の子孫繁栄のために、寺院として何か役に立つことはないだろうかと思案した結果、寺院の特性を活かした婚活支援活動を計画しました。

本覚寺のある広島市は人口百十九万人、行政による婚活支援や業者主催の婚活イベントはとも多いですが、寺院で行っている例は少なく、取り組む価値があると判断しました。

【広島婚活塾の立ち上げ】

活動を始めようと考えた時点で、既に日蓮宗内でも、寺院関係者による『良縁の集い』や青年会や寺院主催による『寺コン』も行われていました。

しかし、活動を開始するに当たっては、特にノウハウも無かったので、まずは『未来の住職塾』のネットワークにより、平成二十八年六月五日に開催された、曹洞宗雲晴寺（兵庫県明石市）主催の『お寺でGOEN』という寺コンを見学させて頂きました。ここで寺院による婚活支援活動の実例を学びつつ、曹洞宗有志で開催されている『吉縁会』の活動を参考にするなど、専ら情報収集に努めました。

その結果、本覚寺での婚活支援活動は、単なる出会いの場を提供するだけでなく、自己啓発に繋がる学びやワーク

シヨップなどを取り入れ、オリジナルの「婚活計画書」を導入し、婚活に役立つ〈塾〉形式にすることにしました。このことは、他の婚活イベントと差別化を図る狙いもあり、その特色を活かして『広島婚活塾』と銘打ち活動することになりました。

【運営・広報】

広島婚活塾は、実際には本覚寺そのものが運営主体ではありません。本覚寺に所属する渡部本人が修徒の立場で行うボランティア活動であるため、運営資金も含めて全てがゼロからのスタートでした。

まずは協力者を募ることから始めました。寺報を通じて檀信徒や関係者に呼びかけたところ、三名にスタッフとして応じて頂き、渡部を含めて四名の〈チーム〉が出来ました。

そして、第一回広島婚活塾の開催日を平成二十九年六月二十五日、参加者数は男女とも十六名づつ、参加費は必要経費のみの三千円に設定し、具体的に準備を始めました。

参加者募集については、寺報及び日蓮宗ポータルサイト内の本覚寺ホームページ<https://temple.nichiren.or.jp/6021054hon/>をメインとしながら、広島県が運営する若者の婚活支援を目的とした『ひろサポ（ひろしま出会いサポートセンター）』のサイト<https://www.hirosapo.jp/>に登録し、イベント情報において、任意団体のカテゴリで開催要項を掲載してもらえることがなりました。

行政の婚活支援と連携したことは、広島婚活塾の認知度を高める上でも非常に大きな効果があり、参加者の多くが『ひろサポ』のイベント情報を見て広島婚活塾にアクセスしています。また、県が母体である『ひろサポ』に掲載されているということは、参加者の安心感にも繋がっているようです。

広島婚活塾では、参加希望者はインターネットで申し込み後、必ず本覚寺において面談を行い、入塾登録を行うこ

とが必須条件となっています。運営者と参加者が直接顔を合わせることににより、お互いの信頼関係を築くことが目的です。面談は凡そ三十分から四十分の間、広島婚活塾の運営方針を説明し、参加者の婚活状況などの聴き取りを行います。また、参加者からの質問や相談にも出来る限り丁寧に応じるようにしています。

第一回参加者は男性十六名、女性十七名と定員を超える申し込みがあり、キャンセル待ちも出るなどの反響がありました。但し、本覚寺檀信徒からの申し込みはありませんでした（これまで六回開催しましたが、本覚寺檀信徒の参加者は二名に留まっています）。

参加者の大多数は未信徒であり、必ずしも仏教の教えや修行体験・法話等に興味があるというわけではなく、寺院の本堂という空間で婚活を行うということに神秘性や新鮮味を感じており、所謂「サクラ」がいない、非営利であること、参加費が比較的安価に設定されているなど、少なくとも、本覚寺を会場とした婚活イベントであることを信用して申し込んでいます。これが「お寺の強み」と言えるでしょう。

【婚活支援の実際】

そして、予定通り平成二十九年六月二十五日に、第一回の広島婚活塾を開催することが出来ました。当日のカリキュラムとしては、

十時三十分 受付開始

十一時 開会式・自己紹介

十二時 昼食・歓談

十三時 ワークショップ

十四時 婚活計画書記入・良縁祈願

十五時 閉会式・アンケート記入・解散

という流れで行いました。ところが、開催してみても初めて気が付いたことが沢山ありました。第一回では時間に余裕を持たせて、参加者の自主性を重んじたつもりでしたが、実際のところ想像以上に受動的な参加者が多く、男女とも異性に対し積極的にアプローチするような場面は少なかったように見受けられました。従って、第一回においては、カップル成立に至らず、所期の目的を達成することは叶いませんでした。

【参加者の声に学び、創意工夫する】

第二回以降の広島婚活塾では、参加者のアンケート結果を元に、少しずつ参加人数やカリキュラムの改善を行うことにしました。

① 開催ペース↓年度三回から年度二回に変更。

② 参加人数↓「婚活イベントの最適人数は、八対八から十対十である」と、『ひろサポ』の研修会で報告があり、定員を男女とも十名に変更（なるべく参加希望者を受け入れるため、男女のバランスを考慮して若干名増員する場合有り）。

	参加者	ワークショップ	1対1トーク	フリートーク	マッチング
第1回 H29/6/25開催	男 16 女 17	水引体験	無 し	無 し	無 し
第2回 H29/10/29開催	男 15 女 16	婚活コーチング	無 し	有 り	無 し
第3回 H30/2/25開催	男 10 女 11	婚活コーチング	有 り	有 り	無 し
第4回 H30/6/17開催	男 9 女 10	お茶体験	有 り	有 り 交替制	有 り
第5回 H30/10/28開催	男 12 女 11	婚活ビデオ視聴	有 り	有 り 交替制	有 り
第6回 R1/5/26開催	男 10 女 11	写真講座	有 り	有 り 交替制	有 り

③ ワークショップ↓出来る限り毎回異なる内容にして、婚活のスキルアップに繋げる。

④ トーク↓参加者全員と話したい、という希望が多く、一対一トーク（一回四分）を導入、フリートークは男女別の交替制（一回二十分）とし、興味のある相手と必ず話すことが出来る時間を作る。

⑤ マッチング↓フリートーク終了後、マッチングカードに興味ある異性の名前を三名まで記入し、相手方も同様に氏名を書いて双方の思惑が一致した場合、主催者側が両者にマッチングの事実を伝え、交際を開始してもらう（参加者の自主性に任せるより、カップルが成立しやすい）。

以上のような改善の他にも、開催終了後の懇親会の開催や、SNSを利用した婚活相談や交際のアフターフォローを続けました。地道かつ根気が必要としますが、参加者一人一人に対して出来るだけきめ細かな対応を行うことにより、参加者の婚活に対するモチベーションと、広島婚活塾のみならず、本覚寺に対する信頼感向上に繋がったようです。ちなみに第六回では、

十二時 受付開始

十三時 開会式・良縁祈願

十三時三十分 自己紹介（一対一トーク）

十四時三十分 ワークショップ

十五時三十分 フリートーク（交代制）

十六時三十分 マッチング・婚活計画書記入

十七時 閉会式・解散

と、カリキュラムがほぼ固定することが出来、時間に無駄のない効率的な運営が可能になりました。今後このスタイルを基本として、引き続き改善を続けていく予定です。

【広島婚活塾開催による効果】

本覚寺での婚活支援活動が続けていると、最初にマスコミが注目してくれました。平成三十年六月十七日に開催された第四回広島婚活塾では、「広島 of 寺院ではとても珍しい取り組みで、未婚徒に対し、寺院を会場にして婚活支援を行うことは〈お寺を開く〉という意味でも非常に意義深い」と、地元 of 中国新聞の記者から取材を受けることとなりました。

その後、七月二日付の朝刊に当日の様子が掲載され、大きな反響を呼ぶことになりました。地方紙とはいえ、新聞の朝刊に掲載されたことによって、問い合わせや参加者の申し込みが更に増加しました。この機会により広島婚活塾に対する認知度と信頼性が確実に向上したことを実感しています（次頁資料参照）。

そして、平成三十年十二月には、第三回広島婚活塾に参加した男女から、「入籍しました」と幸せいっぱい of 報告がありました。続けて、令和元年十月にも、第四回広島婚活塾に参加した男女から入籍 of 連絡がありました。

平成二十九年六月からスタートした広島婚活塾ですが、「お寺で縁結び」・「良縁成就」という究極的な目標を一年六ヶ月という短期間で達成し、本覚寺を媒介にした、新たな「結縁」として実を結ぶことになりました。本覚寺が未婚徒同士の「結縁」 of ハブになることは、広義 of 『立正安国・お題目結縁運動』にも繋がるのではないかと自負しています。

また、第三回広島婚活塾参加者から、親族 of 病気に関する相談を受けるようになり、平成三十年十月、親族 of 死を

縁結び お寺が後押し

「安心感ある」催し好評

本寛寺の本堂で婚活塾の参加者に「お寺で縁を強く結んでほしい」と語り掛ける渡部副住職
(6月17日)



広島県内の寺が婚活（結婚活動）の支援に力を入れている。出会いの場として寺を開放したり、ホテルや喫茶店でイベントを企画したりして独身男女の仲を取り持つ。「真面目な人が来そう」「落ち着いた話ができる」と評判も上々で、参加の輪が広がっている。

（久行大輝）

日蓮宗本寛寺（広島市中区）は6月17日、本堂で「広島婚活塾〜良縁成〜」を見ながら質問を重就の集いを開いた。広島、呉、東広島市などから20〜50代の婚活中の男女19人が集まった。良縁祈願の読経の後、参加者は4分間ずつ相手を変えながら1対1の会話に臨んだ。「アウトドア派な

「心が落ち着く」

参加した女性は「お寺が運営することに安心感がある。誠実な人がいるな」と思った。別の女性は「お寺なら親身になっ

てくれると期待した。お経を聞いて心が落ち着いたら」と話す。

お茶の講座もあり、参加者は外部講師からお茶の種類の説明を受け、3〜4人ずつに分かれて慣れない手つきで煎茶を入れて味わった。フリータイムの後、連絡を取りたい相手の名前を書いた紙を寺に提出し、意中の相手がマッチした3組が連絡先をもらっていた。その後のやりとりは各自に任される。

若い世代と接点

浄土真宗本願寺派西福寺（東広島市）は、市内の酒蔵地区にある喫茶店

で独身男女のための「出遇いパーティー」を開いている。根来暁住職（46）が「寺を訪れる機会の少ない30〜40代と接点を持てれば」と2010年に初めて実施し、これまでに17回開いた。毎回約20人が集まり、カップルの成立率は2割という。

パーティーでは初めに重曹浴のお勧めをする。根来住職は「ご本尊に手を合わせてほしい。自分の心を見つめる婚活は仏教との相性がいい。若い

渡部公友副住職（47）は「お寺というブランドが

てくれると期待した。お経を聞いて心が落ち着いたら」と話す。

契機として、本覚寺の檀徒として入信されることになりました。広島婚活塾は未信徒教化を目的として始めた活動ではありませんが、婚活に限らず、様々な相談に懇切丁寧に対応し、本覚寺に対する信頼感を得たことが（未信徒↓広島婚活塾参加↓檀徒）に繋がる結果になったのです。

広島婚活塾参加者の年代は、三十代後半から四十代半ばが最も多く、婚活という極めてデリケートな問題だけでなく、それに付随した様々な生老病死の悩みを抱えています。したがって、面談や広島婚活塾開催後のきめ細かいアフターフォローによって、真摯に彼らの苦悩に寄り添うことが、未信徒教化への自然なアプローチとなっていることに気が付きました。

【課題と展望】

当面の課題は、『広島婚活塾』を広島という地域社会に根差した活動として定着させることです。これまでのアンケートからは、「本覚寺で合宿をしたい」「修行体験をしたい」という意見も少なからずありました。今後は参加者の声を取り入れて、定期的にイベントを開催することも視野に入れています。

また、第六回からは広島のローカルタレントである、にしべみかさんとタイアップしてワークショップを担当してもらっています。同時に、広島婚活塾の広報にも理解を得て、にしべみかさん自身がメインパーソナリティを務めるローカルラジオ局の番組にも渡部がゲスト出演させて頂きました。

今後の展望としては、

- ① 新聞・ラジオ・ホームページ・SNS・口コミなど、アナログからデジタルまで、あらゆる手段を使って認知度を高める。

- ② 開催内容に工夫を凝らすことによって、他の婚活イベントとの違いをアピールしていく。

③ 絶えず情報収集に努めて、広島婚活塾の活動内容を絶えずアップデートしていく。

以上、檀信徒のみならず、未信徒に対しても、広島婚活塾が安心して参加出来る、実績と信頼のある「寺院における婚活支援活動」として更に継続・発展させていきたい、と考えています。